

東北地方 3か月予報

(7月から9月までの天候見通し)

平成17年6月23日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。
この期間の平均気温は平年並、降水量は平年並が多いでしょう。

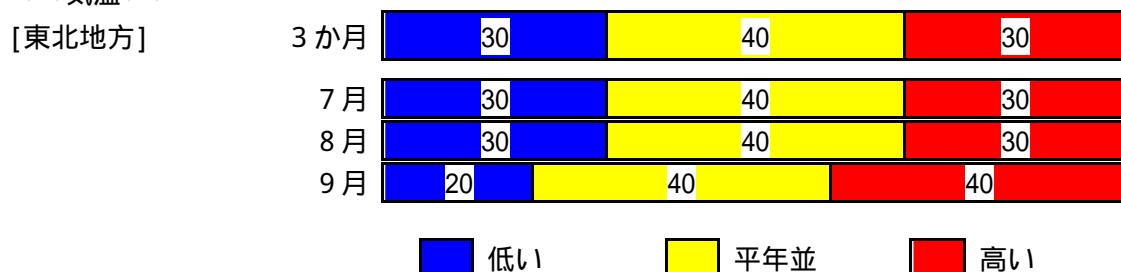
7月 低気圧や前線の影響で天気がぐずつき、東北地方は平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い日もあるでしょう。
気温は平年並、降水量は平年並が多いでしょう。

8月 太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い時期がありますが、一時寒気や前線の影響で天気がぐずつくでしょう。東北地方は平年と同様に晴れの日が多い見込みです
気温は平年並、降水量は平年並でしょう。

9月 太平洋高気圧に覆われ残暑の厳しい時期と前線の影響で天気のぐずつく時期があるでしょう。東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。
気温は平年並か高く、降水量は平年並でしょう。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

<<気温>>



<<降水量>>



<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日14時30分発表 次回は6月24日

3か月予報：7月25日(月曜日) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 平年値(月・3か月平均気温、降水量)

	気温(℃)				降水量(mm)			
	7月	8月	9月	7~9月	7月	8月	9月	7~9月
大船渡	21.0	23.0	19.3	21.1	170.3	198.6	218.7	587.6
新庄	22.3	23.9	19.0	21.8	185.6	174.5	153.0	513.1
若松	23.4	24.8	19.9	22.7	160.1	131.0	134.0	425.1
深浦	21.3	23.1	19.1	21.2	146.0	157.4	176.0	479.4
青森	21.1	23.0	18.9	21.0	102.6	129.3	119.8	351.7
むつ	19.6	21.7	18.0	19.7	122.8	140.4	172.7	435.9
八戸	20.2	22.3	18.6	20.4	117.1	139.8	167.7	424.6
秋田	22.8	24.5	19.9	22.4	178.1	181.9	177.9	538.0
盛岡	21.8	23.2	18.3	21.1	165.7	177.8	157.5	501.0
宮古	20.0	22.2	18.6	20.3	139.2	180.8	229.4	549.4
酒田	23.2	24.9	20.5	22.8	186.1	175.8	185.4	547.3
山形	23.2	24.6	19.7	22.5	143.9	148.8	134.3	426.9
仙台	22.1	24.1	20.4	22.2	159.7	174.2	218.4	552.3
石巻	21.3	23.5	19.9	21.6	131.0	127.0	163.1	421.1
福島	23.5	25.2	20.7	23.2	144.8	144.3	169.2	458.3
白河	22.0	23.3	19.1	21.5	186.8	228.2	215.9	631.0
小名浜	21.7	23.9	21.3	22.3	120.5	141.7	205.8	468.0

(2) 1971~2000年のデータに基づいた7~9月地域平均の気温、降水量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要素	予報対象地域	7月	8月	9月	7~9月
気温平年差(℃)	東北地方	-0.1~+0.6	-0.3~+0.6	-0.5~+0.2	-0.4~+0.3
	東北日本海側	-0.2~+0.4	-0.5~+0.5	-0.5~+0.3	-0.3~+0.4
	東北太平洋側	-0.3~+0.8	-0.3~+0.5	-0.4~+0.3	-0.4~+0.4
降水量平年比(%)	東北地方	89~117	73~117	86~110	97~111
	東北日本海側	83~123	74~107	83~108	89~109
	東北太平洋側	85~114	67~120	87~112	93~112

(3) 接近する台風の平年値

	7月	8月	9月
東北地方	0.3	0.7	0.8

<参考資料(利用上の注意)>

- (1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。
- (2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。
- (3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 3か月予報解説資料(7~9月)

平成17年6月23日 仙台管区気象台

1. 数値予報(アンサンブル予報)による大気の流れの予想

3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図(右図):

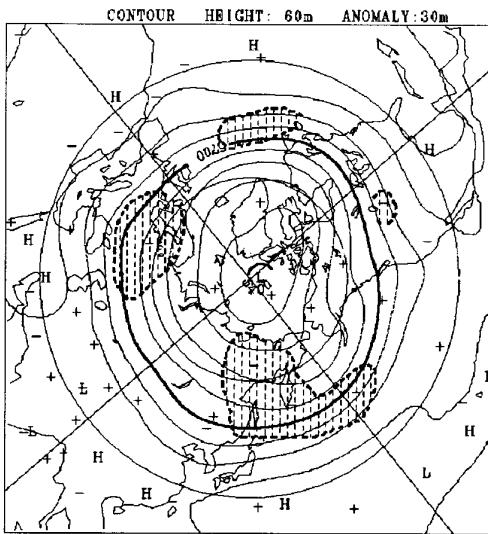
予想図は、日本付近は暖かい空気に対応する正偏差に覆われている。東シベリアからオホーツク海付近は負偏差でオホーツク海高気圧は現れても一時的の見込み。

月別の地上気圧と偏差の予想図(下図。なお、予想図の精度は予想対象期間が先になるほど低下します。):
7月: 太平洋高気圧は西への張り出しは強いが、北への張り出しは弱い。北日本は平年に比べて気圧が低く前線や低気圧の影響を受けやすい。オホーツク海高気圧は不明瞭で現れても一時的の見込み。

8月: 太平洋高気圧は北へも張り出し、東北地方は太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い時期がある見込み。ただし気圧の正偏差の中心は関東の南海上で、東北地方は平年同様、一時寒気や前線の影響を受ける見込み。
9月: 本州付近は平年に比べて気圧が高い。東北地方も太平洋高気圧に覆われ晴れて残暑が厳しい時期がある見込み。

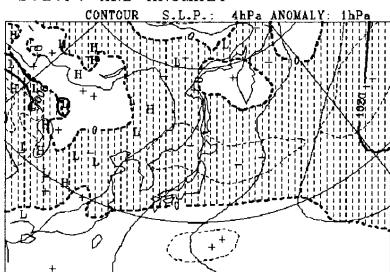
3 MONTH MEAN (7/1~9/30) N:31

500hPa HEIGHT AND ANOMALY

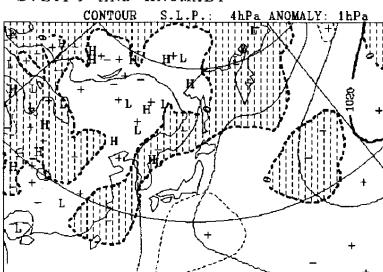


3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図
等高度線: 60m、偏差: 30m、陰影部: 負偏差

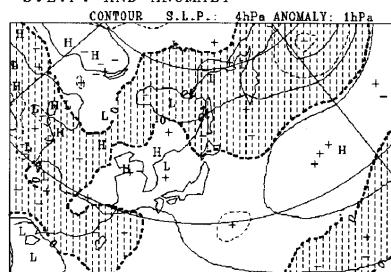
S.L.P. AND ANOMALY



S.L.P. AND ANOMALY



S.L.P. AND ANOMALY

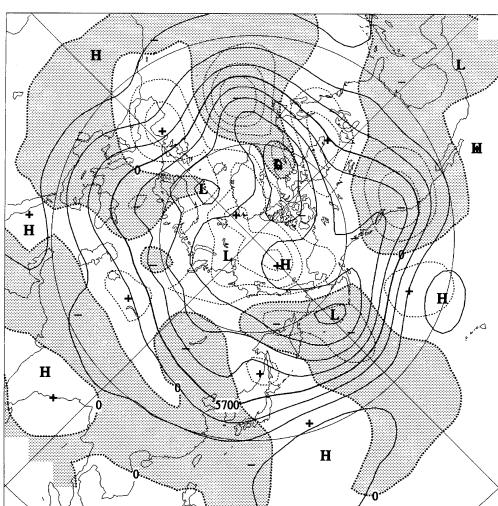


月別の地上気圧と偏差の予想図(左から7月、8月、9月)

等圧線: 4hPa、偏差: 1hPa、陰影部: 負偏差

2. 循環場の特徴

6月1~20日: 500hPa高度では、東日本や北日本、日本の東で正偏差。東北地方は北に偏った高気圧や日本の東からの高気圧に覆われることが多い。東北太平洋側では湿った東よりの風の影響で曇りの日が多くなったが、東北日本海側では晴れて気温の高い日が多くなった。西日本から大陸にかけて、また西日本の南海上は負偏差で太平洋高気圧の勢力は弱く、梅雨前線は本州の南海上に位置することが多かった。東北地方は降水量が少ない状態が続き、東北北部の梅雨入りが遅れている。

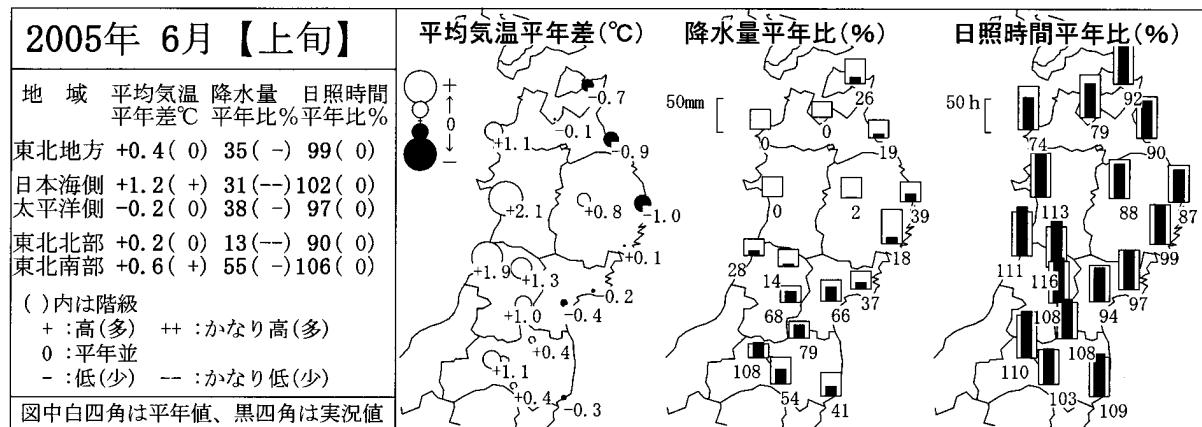


6月1~20日平均500hPa高度
等高度線: 60m、偏差: 30m、陰影部: 負偏差

3. 最近の天候経過

6月上旬：低気圧や上空の寒気の影響と湿った東風の影響で東北太平洋側は曇りや雨の日が多かったが、東北日本海側では晴れの日が多くなった。4日は上空に寒気が入り、各地で雷雨となった。山形ではひょうが降り、さくらんぼなど農作物に大きな被害がでた。まとまった雨は少なく、東北北部を中心に少雨となつた。

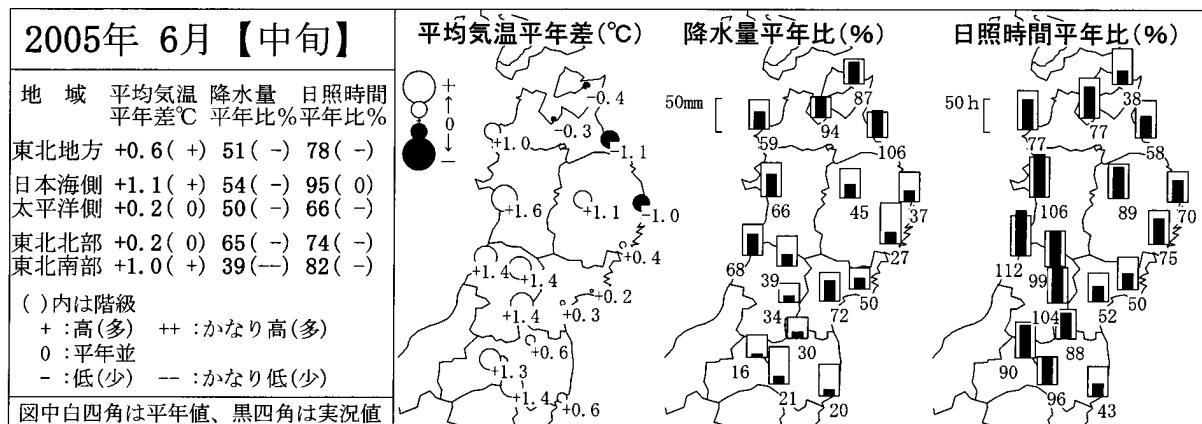
平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側で平年並。降水量は東北北部でかなり少なく、東北南部で少ない。日照時間は東北地方で平年並。



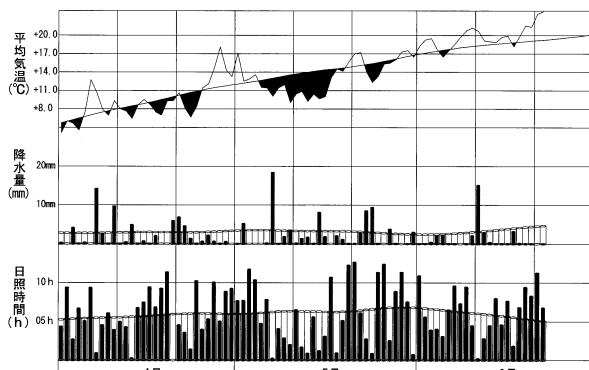
東北地方における6月上旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）

6月中旬：前線や上空の寒気の影響と湿った東風の影響で東北太平洋側は曇りや雨の日が多かったが、東北日本海側では晴れの日が多くなった。20日は上空の寒気の影響で各地で雷雨となり、局的に激しい雨が降った。しかしまとまった雨は少なく、東北南部を中心に少雨となつた。なお、東北南部は15日頃に梅雨入りしたと見られる。

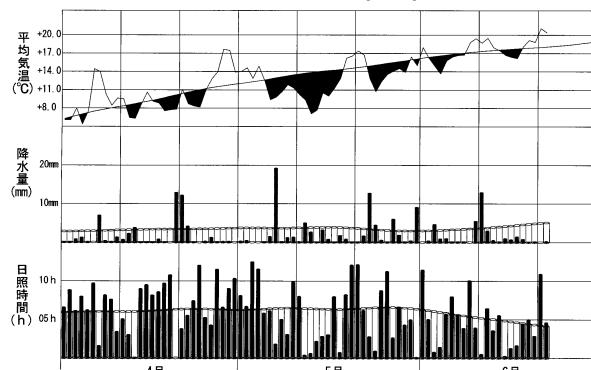
平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側で平年並。降水量は東北北部で少なく、東北南部でかなり少ない。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。



東北地方における6月中旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）



東北日本海側の日別経過図



東北太平洋側の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

4. 太平洋赤道域の海水温等の状況、及びエルニーニョ現象等の今後の見通し

エルニーニョ監視速報（No.153）より抜粋。（気象庁ホームページ：<http://www.jma.go.jp/>）

太平洋赤道域の海面水温はほぼ全域で正偏差が見られた。海洋表層（海面から深度数百mまでの領域）では、顕著な水温の正偏差や負偏差の東進は見られなかった。対流活動はほぼ平年並だった。

エルニーニョ監視海域の海面水温は、夏に基準値（1961～1990年の30年平均値）に近づき、その後もほぼ基準値に近い値で推移するとみられる。秋までにエルニーニョ現象が発生する可能性は低い。

【解説】

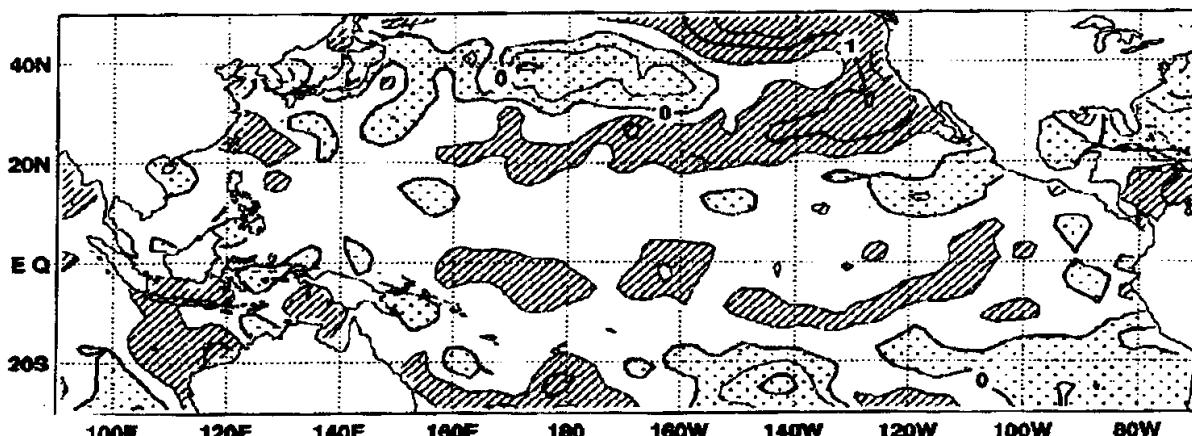
2月から4月にかけて、太平洋赤道域の中部から東部を東進した海洋表層の顕著な水温正偏差は、4月末に南米沿岸に到達した。これに伴い、西経100度付近の海面水温は4月下旬から5月上旬にかけて正偏差が増大した。5月の太平洋赤道域の海面水温はほぼ全域で正偏差が見られた（下図）。エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値との差は+0.6 となった。

一方、5月の太平洋赤道域の対流活動はほぼ平年並で、海洋表層においても、顕著な水温の正偏差や負偏差の東進は見られない。このように、太平洋赤道域の大気や海洋表層では大きな変化が現れておらず、東部の海面水温偏差を一段と増大させ得る要因は考えにくい。したがって、4月から5月に見られた監視海域における海面水温正偏差の増大は一時的である可能性が高い。

エルニーニョ予測モデルは、監視海域の海面水温が夏に基準値に近づき、その後もほぼ基準値に近い値で推移すると予測している。

以上のことから、監視海域の海面水温は、夏に基準値に近づき、その後もほぼ基準値に近い値で推移するとみられ、秋までにエルニーニョ現象が発生する可能性は低いと判断される。

太平洋赤道域の海面水温はほぼ全域で正偏差



2005年5月における海面水温平年偏差（）。濃い陰影部は海面水温が平年値より0.5以上高い領域を、淡い陰影部は平年値より低い領域を示す（平年値は1971年～2000年の30年平均値）。

<参考資料>

平年の天気出現日数（日）

	7月		8月		9月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	14.6	12.6	18.1	15.8	14.3	13.2
雨の日	10.9	11.1	9.7	9.9	12.5	12.0

注：季節予報では、「日照率40%以上の日数」、「日降水量1mm以上の日数」をそれぞれ晴れの日、雨の日の目安として用いている。この2つの事象は同じ日に起こりうるため、両方に数えられる日もある。なお、日照率は1日の日照時間を可照時間（太陽の中心が東の地平線に現れてから西の地平線に没するまでの時間）で割った値である。